

令和 2 年 7 月 臨時 会

予算決算委員会記録

令和 2 年 7 月 29 日 午前 10 時 30 分
全員協議会室

付託案件 議案第 54 号 令和 2 年度有田市一般会計補正予算（第 5 号）
議案第 55 号 令和 2 年度有田市立病院事業会計補正予算（第 2 号）

出席委員 福永広次委員長・成川 満副委員長
浜口元司委員・西口正助委員・宇野博治委員・堀川 明委員
中谷桂三委員・児嶋清秋委員・岡田行弘委員・池田敦城委員
上山寿示委員・小西敬民委員・上野山善久委員・中西登志明委員

生駒三雄議長

経営管理部 嶋田博之経営管理部長・大松満至経営管理部理事
喜多俊充経営管理部参事・山本芳規経営企画課長
上田敏寛防災安全課長・御前一晃総務課長
石井滝称秘書広報課長・上村泰広総務係長

市民福祉部 宮崎三穂子部長・馬倉三喜市民課長
松村尚彦福祉課長・桃井克博健康課長
若松伸行高齢介護課長・上野山緑市民係長
石井義人高齢者支援係長

経済建設部 河野孝司経済建設部長・鈴木順一経済建設部理事
鎌田利宏産業振興課長・泉泰朗産業振興課主幹
脇村哲弘建設課長・福永晃久商工観光係長

水道事務所 江川敦夫水道所長

出納室 森川直子会計管理者

教育委員会 谷輪吉伸教育次長・伊藤正人教育委員会参事
嶋田実明生涯学習課長・岩田吉広市民会館館長
児嶋利樹社会体育係長

消防本部 嶋田富司消防長・尾藤海男樹総務課長

市立病院 神保佳紀事務長・石井絹代庶務課長

議会事務局 田中 聡局長・福永康一次長・大谷真也書記

開 会

○福永委員長： 開会挨拶

議案第54号、令和2年度有田市一般会計補正予算（第5号）の説明

- 山本課長： 歳出 第2款 総務費の関係部分の説明
- 松村課長： 歳出 第3款 民生費の関係部分の説明
- 桃井課長： 歳出 第4款 衛生費の関係部分の説明
- 鎌田課長： 歳出 第6款 商工水産費の関係部分の説明
- 脇村課長： 歳出 第7款 土木費の関係部分の説明
- 尾藤課長： 歳出 第8款 消防費の関係部分の説明
- 伊藤参事： 歳出 第9款 教育費の関係部分の説明
- 嶋田課長： 歳出 第9款 教育費の関係部分の説明
- 山本課長： 歳入関係部分の説明

○福永委員長： 説明は終わりました。次に、質疑を認めます。

御質疑ありませんか。

○岡田委員： 7ページの地域活性化商品券と飲食業応援給付券のところで、地域活性化商品券は千円単位、飲食業応援給付券は500円単位ということで、8月1日が基準日ということで説明を受けましたが、有効期限はいつまでですか。

○鎌田課長： 令和3年1月31日までです。

○岡田委員： 了解しました。続いて、9ページのGIGAスクールで、一人に端末を1台ということですが、これで、実現するのですか。

○伊藤参事： 今回の追加で一人に1台となります。

○岡田委員： 一人に1台になるということで、ネット環境が整っていれば、家庭での学習なども可能になるのですか。

○伊藤参事： 今回導入します学校については、学校だけでなく家庭でも使える仕様になっておりますので、今後の話になると思いますが、家庭でも使用できるように考えていきたいと思っています。

○岡田委員： 続いて、5ページのコンビニ交付サービス対応システム改修で、マイナンバーカードがあれば住民票や印鑑登録証明書が取得できるようになるということですが、改修委託料が今回計上されている770万円ですが、ランニングコストは発生しますか。

○馬倉課長： 今回補正予算でお願いしていますのは、導入費用のみでございます。来年度からは年間必要費用として、約350万円を見込んでおります。

○岡田委員： マイナンバーカードを取得している方は少ないと思いますが、費用対効果を得るようにマイナンバーカードの普及促進をよろしくお願いします。

○中谷委員： 7ページの飲食業応援給付券換金交付金1億3,719万円、地域活性

化商品券換金交付金 2 億 7,438 万円となっていますが、内訳について説明願います。

- 鎌田課長： 飲食業応援給付券換金交付金については、額面 5 千円×人口 2 万 7,438 人で試算しております。地域活性化商品券換金交付金については、額面 1 万円×人口 2 万 7,438 人で試算しております。
- 中谷委員： 飲食業応援について、議会運営委員会の時の説明では 1 億 3,549 万円と聞いていますが、これで計算すれば人口が 27,098 人になり、今の説明と若干人数の差がありますが、この件の説明を願います。
- 鎌田課長： 今回の人口は 7 月 1 日現在の人口で計算しております。
- 中谷委員： 議会運営委員会でもらった資料では 1 億 3,549 万円となっていますが、これは、人口の基準日の違いでこのようになったということでしょうか。
- 山本課長： 議会運営委員会の時の資料では、財源内訳その他のところで 1 億 3,549 万円となっております。このときに私も少し説明不足でしたが、内訳といたしまして、1 億 3,719 万円の諸収入のほか、一方で教育費のその他で、今回既に中止が決定している事業費 170 万円の研修会への参加者負担金分を減額しており、差引き 1 億 3,549 万円という内訳になっております。
- 上野山委員： 7 ページの委託料ですが、商品券作成等業務については市内の業者に委託するのですか。
- 福永係長： 市内の業者に打診しましたが、受託していただけたところがなく市外の業者も視野に入れて考えております。
- 上野山委員： 6 ページの病院事業会計繰出事業について、昨今、湯浅保健所管内で新型コロナウイルスの感染者が確認されたということですが、今の感染症病棟 4 床では少なく、以前 3 階部分をうまく活用してできないかという話があったと思いますが、今回計上されている費用は、3 階部分の充実に充てるということですか。
- 石井課長： 3 階病棟を、新型コロナウイルス患者様の入院対応するための機器導入費用です。
- 福永委員長： 上野山委員。このことに関して説明を求めるのであれば、次の議案第 55 号のときをお願いしたいと思います。
- 上野山委員： 分かりました。次に、9 ページの小中学校の修学旅行について、計画されているということですが、現在、新型コロナウイルスの感染が拡大している中で、対象地域は決定していますか。もう一つ、今までは、バスで現地まで行って、そこからグループに分かれてタクシーで行動すると聞いていましたが、同じように行くことを考えているのであれば、予防策について説明願います。
- 伊藤参事： 修学旅行につきましては、これからの感染の影響にもよると思います。現時点での予定は、小学校は今までと変わらず奈良県と京都府。中学校は東京方面であったのが、中学校によりますが、三重県、山梨県などに変わっています。予防につきまして、各校それぞれ工夫をこらして、まだ予定で詳し

く聞いておりませんが、中学校では電車をバスに変えたりしておりますので、タクシーでということは聞いておりません。

- 上野山委員： 今後状況は変わっていくと思いますので、臨機応変に検討いただいて、安全面を重点的に考えていただきたいと思います。よろしく申し上げます。
- 浜口委員： 今回の新型コロナウイルスに対する国庫補助について参考までに聞きたい。この国庫補助の金額は、新型コロナウイルスの対策をするために各担当部署が試算して積上げた結果の金額であるのか、国の算定による金額であるのか。
- 山本課長： 今回の新型コロナウイルス感染症の地方創生臨時交付金は国の一次補正、二次補正と2度にわたり、全国の市町村に交付内示があったもので、有田市について、今回の交付金は国の算定によるもので二次分につきましては3億7,157万3千円が交付されるものです。
- 浜口委員： 国の算定で約3億7千万円が交付されて、それを各部署で分配したということでもいいのか。
- 山本課長： 各所属から対策に必要なものを報告いただいて、それぞれ精査をしたものでして、当初から分配したものではありません。
- 浜口委員： 何故聞くかというと、当局の努力度を知りたかった。約3億7千万円は有田市にとっては十分であるのか、有田市より人口が少ないのに、より多くの交付金をもらっている自治体があるのかということが気になったので質問をしました。
- 嶋田部長： 今説明したとおり、国の算定で財政力、感染状況など様々なことを加味して算定されたものだと思っております。努力してというものではありません。どこの市町村も同じ状況です。交付金の活用について、5月の臨時会では即応策ということで予算編成をさせていただきました。今回は中期から回復期に向けての施策ということで、一つは消費喚起を後押しするような施策。もう一つは、今も感染状況が続いておりますので、感染拡大を防止するための施策。特に市立病院を抱えておりますので、医療体制の整備といったところに活用させていただいているというところです。
- 中西委員： 5ページの電子計算組織費で在宅勤務できるようにという説明がありましたが、どの部署がどのように実施するのですか。
- 御前課長： 具体的な部署は決まっていますが、万が一庁内で新型コロナウイルスの感染者が発生した場合に、業務を継続するために、行政システムのパソコンがなければ業務できないということで、それを事前に準備しておくための予算となっています。具体的に想定しているのは、ふるさと納税が今後繁忙期を迎えます。そこで感染者が発生した場合、たちまち業務が止まってしまうので、2週間程度の自宅待機の期間を設けますので、その間自宅でもできる環境を整備しようとするものです。他の部署でもできる業務についてはリモートでできる端末を自宅や市の施設等別の場所で業務ができる環境を整える

ものになります。

- 上山委員： 7ページの住宅リフォーム補助金400万円。これは以前からある上限20万円の20件分ですか。
- 脇村課長： そのとおりでございます。上限20万円の20件分の400万円を計上しております。
- 上山委員： 募集については、前回応募して当選しなかった方を優先するのか、改めて募集し直すのか。
- 脇村課長： 前回6月7日に募集をいたしまして、約10名の方が対象外となりましたが、「もう結構です。」と言われた方もおられました。また「待っています。」と言われた方も数人おられますので、その方は優先的にと考えております。
- 上山委員： 10ページの社会教育総務費の備品購入費で非接触型体温計5万6千円は各公民館用ですか。
- 嶋田課長： 各施設と説明しましたのは、公民館、文化福祉センター、市民会館等で8台用意しようと考えています。
- 上山委員： 前回各公民館で新型コロナウイルス感染症対策で網戸が必要ということがありました。今回小中学校は網戸の費用は計上されていますが、公民館は対応できていますか。
- 嶋田課長： 現計予算の空調関係で差額がありまして、それを活用して現在網戸を設置しています。
- 成川副委員長： 今全国的にテレワークということで、国をあげてしていますが、今回の補正予算でも計上されていますが、セキュリティー面についてどのように考えていますか。
- 御前課長： セキュリティーはかなり重要視しております。端末の購入につきましては、本庁にある個人の端末を外部からリモートでアクセスして使うこととしておりますので、外部の端末にはデータ保存できない仕組みになっています。住民基本台帳等を扱う端末もありますが、セキュリティーの問題上、外部からアクセスできる環境の構築は今のところできませんので、テレワークを進める上で、窓口業務や現場を担当する職員のテレワークについては、なかなか進めにくい状況となっています。今回は行政端末をリモートで操作するためセキュリティーを担保した状態で環境を整備しております。
- 成川副委員長： 自席である場合も、離席する場合はスクリーンセイバー等で画面を見えなくしないといけませんが、特に外部からリモートで行う場合はデータ管理を徹底してほしいと思います。
もう一つ、地域活性化商品券と飲食業応援給付券について、封書で直接市民に送るのは、飲食業応援給付券ですね。地域活性化商品券はどのように市民に届けるのかももう少し説明願います。
- 鎌田課長： 飲食業応援給付券ですが、世帯宛に家族個人分を送付します。地域活性化商品券は購入引換券を事前に送付して、その券と引き換えに販売所で

購入していただくこととなります。

- 成川副委員長： 販売所はどこですか。それからここに手数料とありますが、ここの関係もあるのですか。
- 鎌田課長： 販売所は今のところ郵便局を考えております。また、商工会議所にも相談させていただきながら、検討を進めていきます。
- 成川副委員長： 商品券の販売所はこれから郵便局か商工会議所か広報されると思いますが、そこへ行って購入しないといけないということですね。わかりました。
- 西口委員： 販売所については郵便局と商工会議所を考えているということですが、まだ決まっていないのか。販売手数料まで予算計上しているにもかかわらず。きちんと決まってから予算計上するように。しまいにごちゃごちゃになってしまう。
- 鎌田課長： 今回補正予算を計上させていただきまして、まだご承認いただいている中ではございますが、もちろん事前に調査しております。市内の郵便局6カ所で販売を進める方向で調整しております。商工会議所につきましては、議会終了後に改めて相談していくところです。平日は9時から17時の間で箕島、福島、初島、宮崎町、保田、宮原の6カ所の郵便局で販売を行う予定です。土日の販売については市民会館等で9月26日、27日、10月3日の3日間で販売する予定で調整しています。販売期間は11月30日までの予定で進めておりまして、商品券の使用期間は商品券を購入後から令和3年1月末日までを予定してございます。
- 西口委員： 商品券を店で使った後の処理はどうなっているのか。
- 鎌田課長： 利用された商品券の換金については、業務委託する予定です。
- 福永係長： 商店が受け取った商品券については、委託業者に専用の封筒で送付し、その後換金して商店に振り込むこととなります。
- 西口委員： 商店は郵便局か商工会議所へ送って換金するわけか。
- 河野部長： 換金は別の業者に委託する予定で、業者が請け負って、それぞれの商店分を集約して、市に請求し、市から業者を通じて各商店に支払われることとなります。
- 西口委員： その業者はどこよ。
- 河野部長： 今後の委託契約となりますので、まだ決まっておりません。話しております。
- 西口委員： まだ換金の道筋もできてないのに進めるのか。そんな状態で何億という金を動かすのか。この施策をすることに反対はしないが、こんな進め方でいいと思っているのか。
- 河野部長： 業者と話は詰めていますが、議案がまだ可決されていけませんので、正式には至っていないところです。
- 西口委員： もう一度きちんとしてから予算計上してこいよ。こんな中身が詰まってないものになってしまう。

- 成川副委員長： 今のことに関連して、まだ決まっていないという今の話だと思いますが、食事券も商品券もどこで使えるか、全体的な仕組みについての説明をお願いします。市外の店でも使えますか。
- 鎌田課長： 飲食業応援給付券については、これから募集をかけまして、市内の飲食店で使えるものです。前回のフードチケットはテイクアウト、デリバリーを中心に事業者募集をしてきましたが、今回は市内店舗内での飲食でも利用いただける内容にしております。
- 商品券は1万円分ですが、5千円毎で利用条件を付けておりまして、5千円分については、市内に本店を置く事業所で利用が可能なもの。別の5千円分については、大型店舗でも利用可能な自由度を持たせたものにしております。
- 成川副委員長： 商品券5千円で1万円分を購入して、倍の効果を得ようとする発想だと思います。これは一つの考え方ですが、先ほどの話を聞いていると、券の購入から換金までの仕組みが今一つきちんとできていない。不要不急の外出は自粛するようになっているときに、食事券は送らせていただく。個人的な話ですが、お金に色はついていないので、きちんと制度設計をした上で、各家庭に郵送したら早いと個人的に思います。色々することで、倍の効果を出そうという考えで、予算を計上してきているので、それ以上は言いません。
- 池田委員： 換金を請け負う業者は、これからでまだ決まっていない。これから話をしていくということですが、委託費用はここに計上されていないのですか。また補正ですか。
- 鎌田課長： 業務委託料として7ページの12の商品券作成業務等委託料1,811万円、給付券作成業務等委託料276万3千円を計上しております。
- 池田委員： 換金の委託料もそこに入っている。
- 鎌田課長： そのとおりでございます。
- 池田委員： 委託料は入っているけども、委託業者は決まっていない。では、この委託料はどのように試算したのですか。
- 鎌田課長： 数社から見積もりをもらいまして、それを基に予算計上しています。
- 池田委員： そのような説明をすれば納得すると思います。質問に対する答弁がおかしい。話は変わりますが、例えば、教育委員会のバス借上げ。修学旅行へ行くのにバスを余計に借上げて感染をどのようにして防ぐのか。バスより、目的地の方が危ない。出発するときは検査をしたいと思います。目的地で降りていくらバスの中で離れて乗ったところで、生徒・児童はまだ子供です。横に座ることも、前後で食事をすることもあるだろうし、目的地に行ってからバスの乗り降りが物凄く大事じゃない。誰もがやっていることをしていても、それ以上の対策を講じなければ意味がないと思う。それであれば、例えば、監視する人を置いてきちんとマスクを着用させるとか、バスの乗降時にきちんと消毒させるとか、修学旅行前にきちんと検査を受けさせるなどを徹底しないと。バスは座席の間隔を確保するために、一人ずつの計算で借上げ台数を試算してい

ると思いますが、きちんと監視しないと車内でざわついてしまう。先ほどもそうですが、もう少しきちんとした説明と中身を検証して予算を立てるべきだと思います。嫌味な言い方ですが、民間企業では到底考えられないことだと思います。西口委員は元銀行マンなので、計画をきちんと立て説明できないとずっと言われ続けますよ。何年も同じことを言われ続けている。同じことの繰り返しをしていれば何も変わらない。これは役所だけではなくどの企業でも同じだと思う。これからの時代は、もっと違った角度で、いろんな見方で、真剣に、何が必要で、何が不必要か、本当に必要なものだけを考えて進めていかないと、もちろん、今までどおりの役所運営で大切なところもありますが、もっと改革していただきたいと思います。

- 福永委員長： 7ページの商品券作成等業務委託料1,811万円のうち、印刷費用はいくらですか。
- 鎌田課長： 印刷に係る費用は10の需用費で印刷費として計上しております。商品券作成等業務委託の内容については、商品券作成業務、参加店舗対応業務、商品券換金管理業務を委託する費用です。
- 福永委員長： その予算の内訳はどうなっていますか。
- 鎌田課長： 商品券作成業務委託料361万7千円、参加店舗対応業務委託料445万3,200円、商品券換金管理業務委託料434万9,600円。
- 福永委員長： 商品券作成等業務委託料で「等」とすれば、大半が印刷費と思うので、これは今の業務委託料ごとに分けて記載した方が分かりやすいのではないか。
- 嶋田部長： 説明不足のところがありご迷惑をかけております。これは業務委託ということで予算の説明欄ということではこのようなかたちで記載せざる得ないのかと思っています。ただ委託料の中身についてももう少し丁寧に説明できればよかったと思っています。それぞれの金額も先ほど鎌田課長が申したとおりでありまして、ご理解いただければと思います。
- 成川副委員長： 要望ですが、先ほどから説明を聞いていて、今日は7月29日です。食事の給付券は8月1日に各家庭に郵送するというものであります。まだ有田市の制度設計そのものはまだ詰まっていない。8月1日に各家庭に封書が届いたときに、「この券の使い道」、「使えるお店はどこ」、「お店もその券を見せられてもどうするのか」、登録業者もまだこれからということがあったので、もうあと2日しかありません。各家庭に封書が届いて混乱のないように、それを使っていただく商店の方にもわかりやすく、どちらにも納得していただけるように努力をしていただきたい。時間的に大丈夫ですか。
- 鎌田課長： 8月1日は対象者の基準日です。食事券の送付は8月下旬頃を目指して、これから店舗の募集等の準備をしていくことになります。その登録店舗の一覧とともに、送付する予定です。
- 成川副委員長： 最初に8月1日に封書が届くと聞きましたが、8月下旬に封書が届いて、そこから8月1日へ戻ることもできるのですか。

○鎌田課長： 対象となる基準日を8月1日で設定しております。対象者の基準日です。

送付させていただくのが、早くて8月下旬頃を目指して、これから準備を進めていくところです。

○成川副委員長： 商品券はどうですか。

○鎌田課長： 商品券も同じく8月1日を基準日として、対象者を決定します。こちらは準備に少し時間がかかりますので、9月上旬か中旬頃を目指して引換え購入券を先に送付予定としています。その後、郵便局等で購入希望者が、購入するという流れになっています。

○成川副委員長： 先ず初めに今後のスケジュールを説明してから中身の説明をした方がスムーズに進んだように思います。

休憩 午前11時46分

再開 午後1時00分

○福永委員長： 休憩前に引き続き、委員会を継続いたします。

ほかに御質疑ございませんか。

○委員： なし。

質疑終了 採決 (可決)

○石井課長： 議案第55号

令和2年度有田市立病院事業会計補正予算(第2号)の説明

○福永委員長： 説明は終わりました。次に、質疑を認めます。

御質疑ありませんか。

○宇野委員： 9ページの新型コロナウイルス検出キットは、何名分ですか。

○石井課長： 100名分です。今後は追加購入を検討しています。

○宇野委員： 極端に言えば、全有田市民が検査を望めば、これでは対応できない。自覚症状がなくても、家族が感染し発症する可能性もあるので、可能な限り多くの方が検査できるように、100名分ではなく、もっと増やすことはできませんか。

○石井課長： 100名というのは今のタイミングで導入できる件数です。感染拡大となれば、もっと導入していきます。

PCR検査についてですが、希望者全員を検査できる体制ではありません。行政検査ですので、医師が要検査と判断した方となっており、希望者全員という体制にはなっておりません。

○宇野委員： 1回目は陰性でも、2回目で陽性になる場合もあるので、行政検

査では遅いと思います。早め早めの対応がいいと思います。

感染状況に応じて検出キットを増やすということですが、後手後手になると危惧します。その辺りのことは、あなた方は専門なので、検討して進めていただきたいと思います。

○福永委員長： ほかに御質疑ございませんか。

○小西委員： 検査キットの導入ということで予算を計上されていますが、有田郡市の感染症受入病院としての役割がますます増してくると思います。陰圧装置2台、人工呼吸器2台ということですが、マンパワーが対応できるかどうか。検体を採取するのは医師。検査には検査技師ということでマンパワーがなければできないと思います。検査キットは簡易なものですか。この前の報告では、郡市で、3百数十人の方が発熱外来を受診されたと報告されておりました。今後の見通しをお伺いしたい。

○石井課長： 確かに人員については余裕のある状況ではありません。人工呼吸器、陰圧装置2台ずつに関しましては、今後感染症が圏域内で拡大したときには、現在の感染症病棟4床では対応できませんので、3階の一般病棟の開放を考えております。ここを解放したときに、機器が2台までであれば、現在の看護師さんで対応できます。

検査につきましては、抗原検査は看護師さん。今回導入を考えております検査については検査技師さん。簡易検査ができるようになっていきますので、これまでであった検査では、時間が早くても4～5時間かかったものが、院内で40分と短縮できる新しい機器が開発されておりますので、当院で対応できる機器の導入を考えております。

ただ、今後の感染拡大に備え、臨時の看護師、医師、県からの派遣登録などの体制も検討しております。

○小西委員： 患者の発生が予測されますね。安心、安全の拠点は有田市立病院という認識をもっていますので、ぜひマンパワーの充足も含めながら、最大限頑張ってくださいと思います。

○委員： なし。

質疑終了 採 決 (可 決)

閉会 午後1時13分